



シャミナード年： 2011年8月の祈りの提案

「キリストにおいて造り上げられ、信仰をしっかりと守った」(コロサイ2：7)

今月の祈りのための示唆は、今月お祝いする三つの意義深い日付や出来事からきています。すなわち、

ワールド・ユース・デー（16日～21日）

聖母マリアの被昇天の祭日（15日）

福者ヤコブ・ガップの記念日（13日）

同時に私たちは、今月の祈りの実行を容易にし、それにインスピレーションを与える助けとするために、三つの資料を提案します。

神のみことば

創立者の文書

福者ガップから家族、総長代理に送られた最後の手紙

これらの示唆は二つの可能性を提示します。

- ① 三つの意義深い日付や出来事それぞれに光を当てる長い祈り
- ② その日の典礼の焦点を合わせた、8月を通しての日々の短い祈り

示 唆：

祈りの環境・雰囲気： 祈りが行われるチャペルか部屋には、中央に十字架を置き、また、福者シャミナード師と福者ガップ師の小さな写真を飾り、更に一つか二つのローソクを灯した祭壇を設けることができるでしょう。また聖書も必要です。もし祈りが共同体としてのものであれば、聖歌で始めることができます（その際は、共同体がそれぞれ聖歌を選んでください）。例えば、

開祭の聖歌・・・ L. Deiss : Keep in mind that Jesus Christ

テゼー : “Bless the Lord, my soul”

“Jubilate Deo”、“Jésus le Christ”

閉祭の歌・・・ Salve Regina（或は、他の聖母賛歌）

理想的なアウトライン：

今月の祈りは、参照とインスピレーションのポイントとしてワールド・ユース・デー（WYD）を用いて、キリストに焦点を合わせたものでなければなりません。

- ・ キリストは私たちの岩、私たちの人生の土台です。私たちは、信仰によって、キリストにおいてこのことを確認します（WYD：聖書からのテキスト）。
- ・ マリアの被昇天はキリストのうちに生きる恵みを示していますが、この恵みは信仰の女性であるマリアの生と死に影響を与えています。（被昇天：被昇天についてのシャ

ミナード師の説教 — マリアに関する記録 第I部 442～450)

- ・ 福者ヤコブ・ガップもまた、岩であるイエスのうちに固く立つために、どのように恵みによって影響を受けてきたかを要約しています。

(福者ガップ： 拘置所からの最後の手紙)

祈りのために勧められるテキスト

- ・ 聖書から： コロサイ、2、1～9； コロサイ、2、20～3、4；
エフェゾ、2、17～22； フィリッピ、2、5～11
- ・ 創立者から： マリアに関する記録 第I部 442～450； 467～472；
544～557； 561～565；
- ・ 伝統から： ヤコブ・ガップからの最後の手紙

祈りの提案

A) グループの祈りの形式

1. 開会の聖歌
2. 聖書朗読： コロサイ、2、1～9
沈黙 (或は、短い考察 / ホメリア)
3. シャミナード師： マリアに関する記録 第I部 442～445
全体への朗読、或は、沈黙での読書
分かち合い： 神のみ言葉と創立者の説教に基づく考察、共同祈願、感謝
4. 福者ガップからのユング師宛の手紙
5. 奉献の儀式
6. サルベ・レジナ

B) いくつかの祈りの集会のための形式

アウトライン： 沈黙のうちに集まる → 聖書朗読 → 念祷 →
今月の読書 → 念祷 → 共同祈願と感謝の祈り

1. 信仰によってキリストのうちに造り上げられる

- ・ 聖書朗読： コロサイ、2、1～9、及び、エフェゾ、2、17～22
- ・ WYD、特に、キリストが参加者の人生の岩となるよう参加した若者たちの精神を開かせるその方法の展開として、ふさわしい共同祈願を唱える。

2. 聖母被昇天

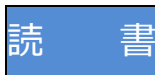
- ・ 聖書朗読： フィリッピ、2、5～11
- ・ マリアに関する記録 第I部 442～450； 467～472；
544～557； 561～565；

(いくつかの読書は同じメッセージを含むので、この中から一つを選ぶ)

多分、554～557の読書が最もふさわしく、完全なものかもしれません。

3. 福者ヤコブ・ガップ

- ・ 聖書朗読： コロサイ、2、20 ～ 3、4
- ・ 福者ガップ： 拘置所からの最後の手紙



聖なる乙女の被昇天に関するシャミナード師の説教（マリアに関する記録 442-444）

442. 「お誘いください、わたしを」（雅歌 1, 4）

私たちが、今祝っている秘義の中に、地上の人々が経験するように思われる損失のみを見るなら、この秘義は悲しみと涙の秘義のように見えることでしょう。・・・しかし、「わたしが去っていくのは、あなた方のためになる」（ヨハネ 16, 7）。

443. 聖なる乙女は、被昇天の当日、或は、復活の先取りとして墓を後にされて

から、永遠の栄光に入れ、ご自分の後に私たちを導き、ご自分に従うようにとの大きな望みをもってわたしたちを鼓吹される、と私たちが言う時、それは御子イエスから独立した、また、彼の権威を傷つけるような何らかの力を彼女に帰するものではありません。私たちの心と体の上に権威をもって行動されるのは、ただ一人、イエス・キリストだけです。この人となられた神の礼拝すべき秘義だけが、キリスト者の人生の様々な状況の上に聖化の驚くべき影響と恵みを及ぼすのです。何故なら、イエス・キリストは私たちの救い主、私たちの模範、私たちの報いとなって下さる方であり、イエス・キリストだけが私たちをご自分に引き寄せる権限とそのために必要な本来の性質を備えておられるからです。



たとえすべての人にとって死は常に不幸で不毛なものであるとしても、キリストご自身の死は、真実ではあるが目には見えない作用によって、私たちのうちに不思議なほど実りある働きをするのではないのでしょうか。「私たちは生きている間、絶えずイエスのために死にさらされています。・・・こうして、私たちのうちには死が働いていることになります」（Ⅱコリント、4、11～12）。

「しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となりました」（Ⅰコリント、15、20）。「キリストは、私たちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです」（フィリッピ、3、21）。「神は私たちをキリスト・イエスによって共に復活させ、共に天の王座に着かせてくださいました」（エフェゾ、2、6）。

444. いずれにしても、どのような神秘的な恵みが私たちをマリアの後に導くのかを私は知りませんが、教父たちによれば、マリアは御子に依存する三つの秘義のうちに、この恵みを持っておられるということです。しかしここでは、マリアの聖なる死とその至福についてだけ述べることにしましょう。

福者ヤコブ・ガップ、SMの最後の手紙（1943年8月13日 殉教の当日）

（ベルリン市プロテンセにて）

家族への手紙：



親愛なるいとこ達、セペル、そして、私の親愛なる他のすべての皆さん、

皆さんがこの手紙を手にする頃、私はすでにより良い命へと移っていることでしょう。セペルとアンナがまだワッテンにいるかどうか定かではないので、皆さんにこの手紙を書くことにしました。そうすればこの手紙が宛先不明になることはないでしょう。

私は去年の11月9日に、フランスの領土で逮捕されてベルリンに送られ、御心の祭日である7月2日に死刑を宣告されました。今日、それが執行されます。今夜7時、私は、いつも熱烈に愛してきた救い主のもとに行きます。私のために悲しまないでください。私は今とても幸せです。もちろん、私は長く辛い時期を過ごしてきましたが、非常に良い死の準備をすることができたのです。正しい生活を送り、神への愛によってすべてのことを耐え忍んでください。いずれ天国でまたお会いできるでしょう。親戚や知人の皆さんによろしくお伝え下さい。

天国で皆さんのことを思い出します。逮捕されてから今日に至るまでの辛い期間、私は皆さんのために絶えず祈ってきましたが、これからは天国で皆さんのために取りなしをいたします。そしてまた、すでに亡くなった私たちの愛する人たちに、皆さんの心からのあいさつを伝えます。これまでの辛い心の葛藤を経て、私は今、今日が私の人生において最も素晴らしい日である、と考えているところにきています。私が子どもだった頃から皆さんが私のためにしてくれたことに対して、主が報いてくださいますように。

親愛なるセペル！ 私はどれほど繰り返しあなたのことを思ったことでしょう。悲しまないでください。すべては過ぎ去り、天国だけが変わることなく残ります。いつの日にか私たちはまた会えるでしょう。その時は、もはや別離などはありません。どうか、すべての親戚の皆さんに、私の死を知らせてください。私は反逆罪のかどで死刑判決を受けました。私たちのすべての仲間に私のことを伝えてください。私が誰のことを言っているのか、あなたはわかっているでしょう。

私たちの母であるマリア様が私を待っておられます。まもなく、私はマリア様と一緒になれます。何という喜びでしょう！ それでは、みなさん一人ひとりに、私の心からのあいさつを伝えてください。皆さんのために祈ります。また私たちの祖国のためにも祈ります。

それでは、また会う日まで、さようなら。

イエス、マリア、ヨゼフにおける皆さんの親しい友、

ヤコブ

マリア会総代理・フランソワ・ヨゼフ・ユング神父（ベルギーのニベル在住）宛：



敬愛する神父様、

死刑執行の数時間前ですが、あなたにお別れの挨拶をしなければ、と思いましたが。7月2日、御心の祭日に、反逆罪のかどで死刑を宣告されました。今夜7時に刑が執行されます。

昨年の11月9日以来の監禁生活の間に、私には自分の人生を振り返る時間が十分にありました。あなたと知り合ってからあなたがわたしにしてくださったすべてのことに心から深く感謝いたします。私は、いつも自分のことを、マリア会のメンバーだと思っています。それで、私は今、誓願を更新し、愛する天の母のみ手を通して私自身を神に捧げます。

どうかあなたにご心配をおかけしたかも知れない私をお許してください。私はいくつかのとても辛い時期を過ごしてきましたが、今は全く平安です。これらの辛い時期が私の浄化に大きな影響を及ぼしたのだと思います。

仲間であるすべての会員たちによろしくお伝えください。すでに新しいのちへと旅立った人たちに皆さんのあいさつを伝えます。すべては過ぎ去り、天国だけが変わることなく残ります。私は1920年8月13日に修練期を始めましたが、それは私の人生のとても素晴らしい時期でした。今日、1943年8月13日に、幸いな永遠の命を始めることができることを私は希望しています。

さようなら！ 私のために祈ってください。私もあなたのために祈ります。
またお会いしましょう！

イエス・マリア・ヨセフにおいて

敬具

ヤコブ

R.I.P.